

【佳作】

「「ジョバンニの島」から学ぶ」

札幌聖心女子学院中学校

1年 都筑 暖和

身内に元島民がいるわけではない。元島民の人と話したことがあるわけでもない。島に行ったことも、島に住んでいるロシア人と交流したこともない。北方領土とのつながりといえばたまたま見たニュースと授業でちらっと出てくる話くらいだ。だからどの話が正しいのか、どんな歴史があったのか、私は全く知らない。

しかし「ジョバンニの島」を見て、元島民とロシア人の島民の心が少しは理解できた気がした。

純平に疑われ、純平と再会できず、ロシアに帰ることもできず亡くなったターニャ。

父と再会してもなく日本に帰れず命を落としてしまったカンタ。

そして母を亡くし、弟も亡くし、父やターニャと離れ離れになってしまった純平。

ターニャやその他のロシア人の子どもの事を考えると、ロシア人が悪いというのも違う気がする。

ロシアに帰りたと思う人や、日本人を優遇してくれる人がいるのも確か。この時、私はロシアを責める気なんてさらさらなくなってしまった。

しかし政治は複雑だ。その領土がどこの国に属するのか、主張しなくてはならない。そこでは、個人の事情や生命は後回しにされてしまうのだろうか。領土が増えると領海が広がる、というのは考えたが、私には理解不能だった。

元島民のように自分の住んでいた土地を奪われる、という感覚を想像してみた。今私が住んでいる家から、突然立ち退きを求められたら。

豪邸ではないが、家族と暮らす、住みなれたその家を突然追い出されて、思い出の品を持ち出すこともできず、知らない土地の汚く狭い部屋に強制的に押し込められたらどうなるだろう。そして思い出のつまった家を見知らぬ人に使われ、面影のない内装に変えられたらどう感じるだろう。さらに、容易に訪れることもできず、周りの自然やいつの間にかできていた心地の良い空間、近所の人々との関係も失われてしまったら・・・時間がたてば新しい生活になれることはできるだろう。しかし故郷を失った気持ちは残る。戦争がもたらした悲劇を風化させてはならない。

だから、私はこう考えた。

「北方領土という家を元島民に返して下さい。初めは一島で良いですがすぐにでも四島返して下さい。」と。最終的にはこれしかない、と考える。

私は、四島あってこそその北方領土であると思っている。

もちろん簡単な話ではない。ロシア人の島民にとっても戦後75年たった今や大事な故郷となっているはずだ。

だから純平たちが経験した強制退去は今の島民に対してはさけるべきだ。彼らへの補償について日ロ両国で話し合えないのだろうか。